

学力向上を実現する 授業改善のために

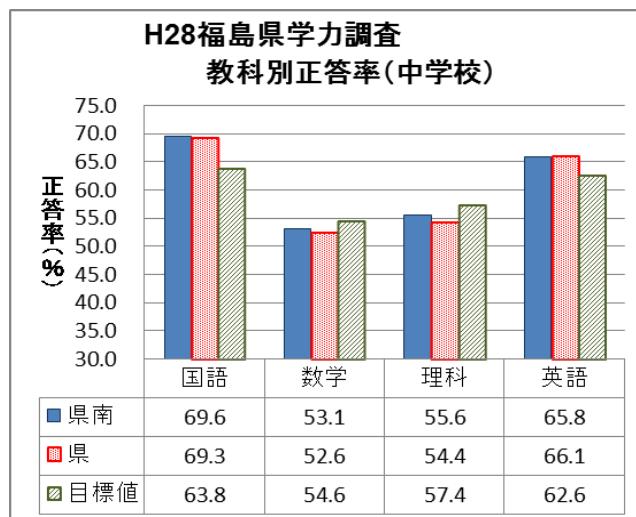
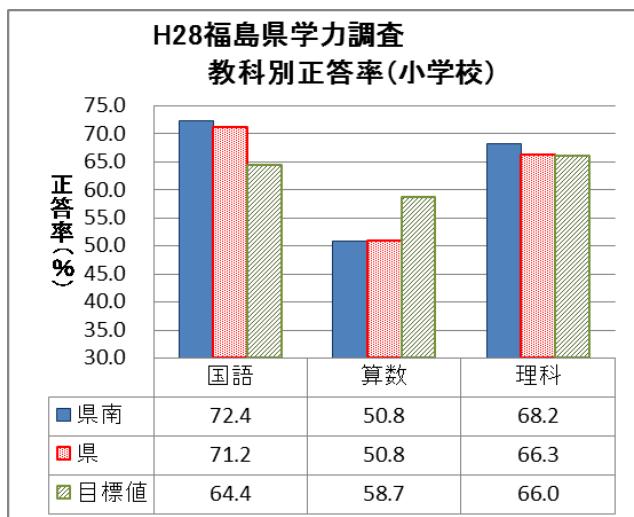
学校教育課通信

平成 29 年 2 月 8 日 (水) 第 131 号
編集・発行：県南教育事務所 佐藤 晃

平成 28 年度県学力調査結果から

今年度の福島県学力調査結果が 1 月 20 日に公表されました。県南域内の平均正答率をみると、小・中学校のどの教科においても、県平均を上回るか同程度というすばらしい結果となりました。また、目標値と比較しても、小学校の国語、小学校理科、中学校国語、中学校英語で目標値を上回っており、児童生徒の学力向上に向けたこれまでの各学校の取組の成果が表れているといえます。

今後、さらに今回の結果を授業改善に生かしていくために、該当学年だけでなく学校全体で結果や解答状況を分析し、どんな取組が成果につながったのか、なぜつまずきが見られたのかなど、これまでの指導を振り返るよい機会としていくことが大切です。本事務所も、分析結果をもとにした各学校への支援や指導資料の活用を推進していきたいと思います。



域内の主な特徴

<小学校 国語科>

- 県平均との比較において、教科全体で 1.2 ポイント上回った。領域別、観点別の比較では、すべての領域、観点で県平均を上回った。
- 特に言語についての知識・理解・技能の観点においての標準スコアが高く、県平均と比較して 1.8 ポイント上回った。

<中学校 国語科>

- 県平均との比較において、教科全体で 0.6 ポイント上回った。領域別、観点別の比較では、「話すこと・聞くこと」の領域、観点において、県平均を 2 ポイントほど上回る結果であった。
- 解答形式では記述式の正答率が高いが、選択式、短答式では県平均を下回った。

<小学校 算数科>

- 全体的に県平均と同レベルであるが、目標値を 7.9 ポイント下回っている。特に、活用については、目標値を 11.1 ポイント下回っている。
- 領域別では、数と計算の領域が目標値を 9.5 ポイント下回っている。正答率度数分布から、正答率 50~60% がその周辺の範囲より低く、二極化の傾向にある。

<中学校 数学科>

- 県平均を 0.5 ポイント上回ってはいるものの、目標値を 1.5 ポイント下回っている。
- 資料の活用が 4.1 ポイント上回っているものの、数と式の領域が目標値を 6.5 ポイント下回り、教科全体で目標値に到達しなかったことに大きく影響している。

<小学校 理科>

- 知識・活用、観点別は、全て目標値を上回っている。
- 理科の学習についての肯定率では、「好き」も「よく分かる」も県平均を上回っている。

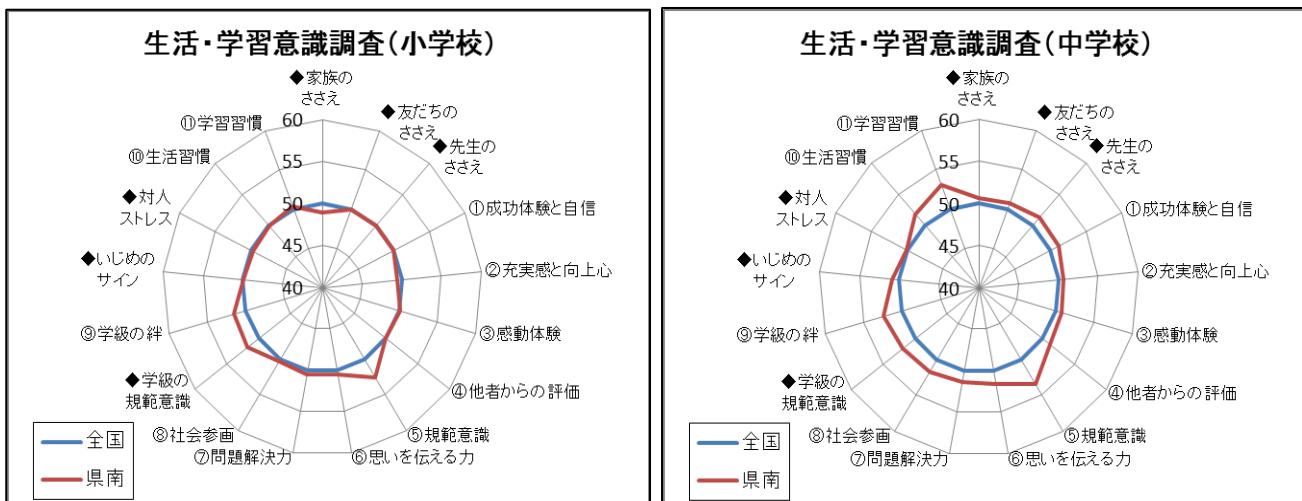
<中学校 理科>

- 知識・活用の「活用」、領域の「生命」以外は、全て目標値を下回っている。
- 理科の学習についての肯定率では、「好き」も「よく分かる」も県平均を下回っている。

<中学校 英語科>

- 知識・活用ともに目標値は上回っているが、県平均をわずかに下回っている。
- 問題別では「場面に応じた英作文」が、県平均を 6.2 ポイント下回った。

【生活・学習意識調査から】



標準スコア	全国	県南	
		小学校	中学校
自己認識	◆家族のささえ	50	48.9
	◆友だちのささえ	50	49.9
	◆先生のささえ	50	50
	①成功体験と自信	50	49.9
	②充実感と向上心	50	49.4
	③感動体験	50	50.1
	④他者からの評価	50	49.9
社会性	⑤規範意識	50	52.6
	⑥思いを伝える力	50	50.5
	⑦問題解決力	50	50.5
	⑧社会参画	50	50.4
学級環境	◆学級の規範意識	50	51.8
	⑨学級の絆	50	51.5
	◆いじめのサイン	50	49.9
	◆対人ストレス	50	49.7
生活・学習習慣	⑩生活習慣	50	49.9
	⑪学習習慣	50	50.3
平均		50	50.3
		51.5	

<小学校>

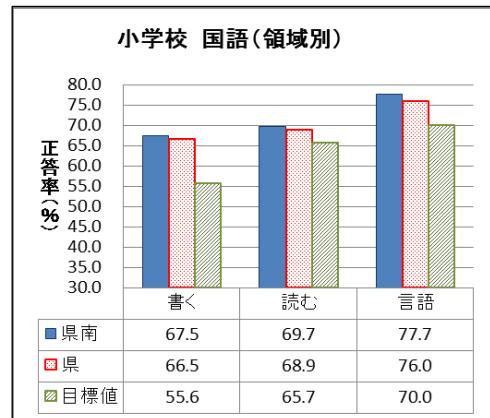
- 全国平均と比較して、自己認識は低いものの社会性、学級環境は上回っている。特に規範意識が高い。
- 質問別の回答状況をみると、「クラスの中で困っている人を助ける雰囲気がクラスにあるか。」「学校の規則やクラスで話し合って決めたことを守っているか。」などで、肯定的な回答率が全国や県より高い。
- 「好きな教科や授業があるか。」「テストでまちがえた問題を後でやり直すか。」では全国・県より肯定的な回答率が低い。

<中学校>

- 自己認識、社会性、学級環境、生活・学習習慣の全てで全国平均を上回っている。特に、規範意識、学級の絆、学習習慣が高い。
- 質問別の回答状況をみると、「あなたの気持ちを分かろうとしてくれる先生がいるか。」「勉強やスポーツ、習い事、趣味などで今がんばっていることがあるか。」「話合いの時、相手の話を最後まで聞いて発言するようしているか。」「好きな教科や授業があるか。」などで、肯定的な回答率が全国や県より高い。

【国語科】

＜小学校＞



正答率が高かった国語辞典の使い方や漢字の成り立ち

小学校国語科では、県平均と比較して、県南域内の平均値はどの領域においても上回りました。特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する領域で1.7ポイント上回りました。

設問毎の正答率については、ほとんどの項目で県平均を上回っていましたが、「説明文の内容を目的や必要に応じて読み取る短答式の問題」「与えられた情報を読み取り、情報を組み合わせて質問に答える記述式の問題」の正答率が10%台でした。これは県平均と同等の正答率ですが、得た情報を自分の言葉に置き換えて文章で表現することに課題があると考えられます。

【課題に対応した指導の例】

文章の内容を正確に読み取る力を、短答式の問題で高めていく。

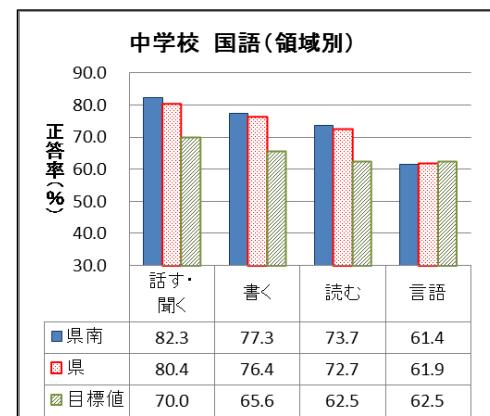
学び合いの中で、自分の考えを自分の言葉で話す「言語活動」をより一層充実させる。



図表から読み取れることを、自分の言葉でまとめさせる学習活動を取り入れる。

作文指導において、さまざまな題材を取り上げて短い文章にまとめる機会を設定する。

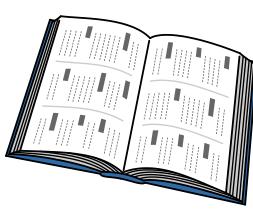
＜中学校＞



書く力が身についています

中学校国語科では、「書くこと」の条件に合わせて作文を書く問題で、指定された字数で書くことにおいて6ポイント、2段落構成で書くことについて5ポイント、自分の考えを明確に表すことについて5ポイント県平均を上回っていました。

設問毎の正答率については、ほとんどの項目で県平均を上回るか同等の正答率でしたが、「小学校で学習した漢字を書く問題」「主語・述語・修飾語などの文の成分について問う問題」に関しては、正答率が30%から50%前後でした。県平均との比較ではほぼ同等の正答率ですが、言語事項に関する指導の充実に努める必要があります。



文法の学習においても、漢字同様単元の学習以後も家庭学習などで取り組む機会を設定する。

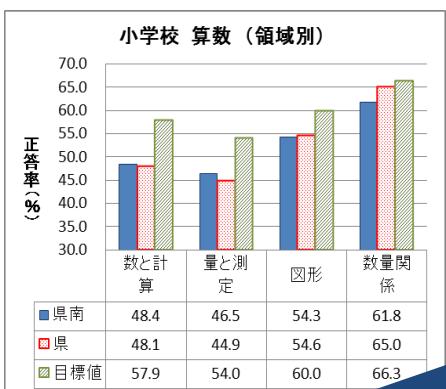
学習タイムや授業冒頭に「漢字豆テスト」を実施する。(既に実施している学校も多いです。)

作文は小論文の基礎となる大切な学習活動である。定着確認シート等を活用して、文章表現力を高める。

一文から比喩を読み取ったり、文章全体から対比の構造を読み取ったり、文章表現についての指導は内容も多岐にわたる。まず、文章表現に関する言葉を正しく理解することを大切にする。

【算数・数学科】

<小学校>



一発検索くんの「基本問題集」の活用を。
計算の意味や技能など本当に基本的な部分の
学び直しに効果的です。

小学校算数の平均正答率は、県平均と同程度ですが、**目標値を7.9ポイント下回っています。**

「分かる・できる算数」を目指して

すぐにやりたい3つのこと

1 計算指導は、この3段階を意識しましょう！

- ① 見積もり → ② 計算 → ③ 検算

昨年度の県学力調査、本年度の全国学力・学習状況調査でも正答率の低かった小数の計算の意味や技能が今回も低く改善されていません。これは、**県南の喫緊の課題**です。

除数が1より小さい小数の除法については要注意です。

2 伴って変わる2つの数量関係を式に表すことに課題

本調査の11の正答率が県平均を1.4.4ポイント下回っています。このことから、教科書単元では、4年「変わり方」、5年「表や式を使って」の関する内容が十分に定着していないことが推察されます。

以下の①②の問題で学び直しを。

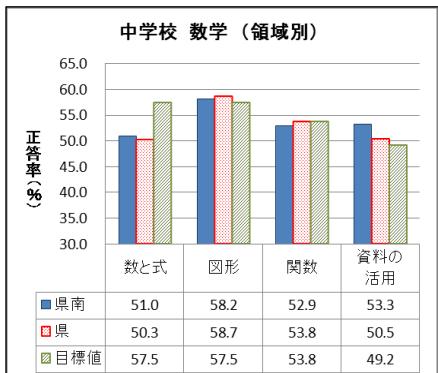
① フォローアップシート「変わり方のきまり」

② 定着確認シート「H27年度 4年 第6回 8」

3 体験、操作を大切にして量感や思考力を育てる

- ① 新聞紙1枚の面積は何cm²？
② 数直線を使って式を説明してみましょう。

<中学校>



中学校数学の平均正答率は、県平均を0.5ポイント上回っていますが、目標値を1.5ポイント下回っています。

2の「運動部に所属している生徒の人数を、百分率を表した文字を使って表す」問題、3の(2)「分数解になる連立方程式」、4の「文章問題から連立方程式を立式する」問題で目標値を大きく下回っています。

「分かる・できる数学」の授業を目指して

すぐにやりたい3つのこと

1 必要に応じて小学校の学び直しを!!

割合 (%)、不等号、四捨五入、比例・反比例に関する問題場面は、小学校の学習を振り返ると有効です。

(例) ある数aの小数第2位を四捨五入した5.0になりました。aの範囲は?

小数第2位を四捨五入するのだから

4.95以上5.05未満

これを不等号で表すと?

2 解き方の意味の理解を大切に！

$$\begin{cases} y = 4x + 1 \\ y = x + 3 \end{cases}$$

形は違うけれど、文字をひとつ減らすことが基本だから・・・と考えられる力を。

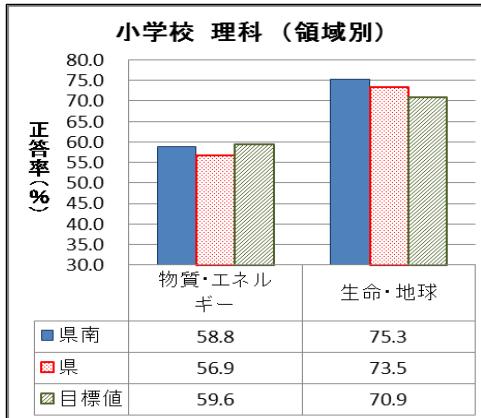
3 時折、学び直して定着を

どうしても、学んだことを忘れてしまいます。
ときどき復習問題をしてみましょう。

一発検索くんの「基本問題集」の活用を。
計算の意味や技能など本当に基本的な部分の学び直しに効果的です。

【理科】

＜小学校＞



見て、触れて、やってみて
さらに楽しい授業を！！！



小学校理科では、県平均も目標値も上回り、生活圏別ではトップのすばらしい結果でした。さらに、理科の授業が楽しく、分かりやすいと感じている児童が多いという結果も得られました。正答率の低かった内容については、生活の中の事象と結びつけたり、もう一度実験・観察したりするなど、実態に合った方法を工夫して見直すことが大切です。

* * * * * 見直したい3つのポイント * * * * *

- 1 教科書の図を見ながら、**実験装置を組み立てる時間**をとりましょう。



- 2 空気中の水蒸気が冷やされると水にもどる現象を、**日常生活の中から見つけてみましょう。**

・なべのふた・冷やしたペットボトル・窓ガラス …

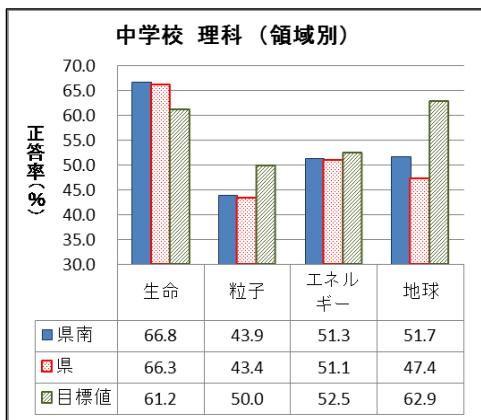
- 3 晴れた日に、夜空を見上げて**星や星ざしを見る機会**をつくりましょう。

※保護者(家の人の協力を得ることが不可欠です。

事前に依頼し、児童への指導も丁寧に行なうことが大切です。
親子で楽しめるきっかけになるといいですね。



＜中学校＞



「なるほど！」、「わかった！」で
楽しい授業を！！！



中学校理科では、全ての領域で県平均を上回り、生活圏別ではトップのすばらしい結果でした。目標値と比較すると、**粒子**や**地球**領域が課題であり、昨年度と同じような傾向も見られます。正答率の低かった内容については、2年生に限らず、今年度中に見直しておきましょう。

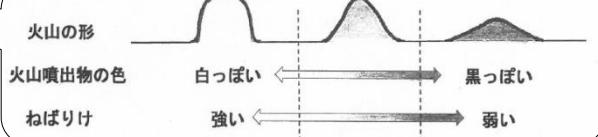
* * * * * 見直したい3つのポイント * * * * *

- 1 氷を熱すると →とけ終わるまで温度は0℃のままで

- 2 物質A、Bの質量が同じで**密度**が異なるとき
→物質A、Bの体積が異なる。

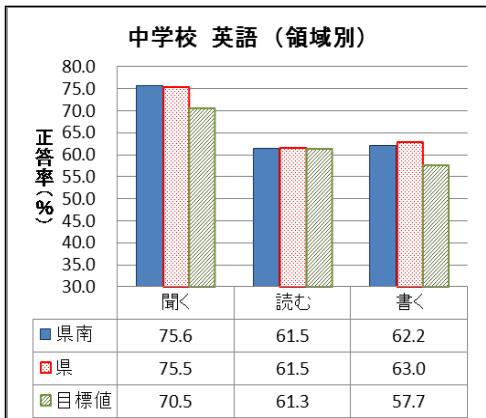
$$\text{密度} (\text{g}/\text{cm}^3) = \text{質量} (\text{g}) / \text{体積} (\text{cm}^3)$$

- 3 ねばりけの強いマグマ
→**無色鉱物**の多い溶岩
→**盛り上がった形**の火山



【英語科】

<中学校>



中学校英語科では、領域別に見ると「聞く」「話す」については、ほぼ県平均と同じ正答率ですが、「書く」領域は0.8ポイント下回りました。

設問ごとになると、「場面に応じて適切な英文を書く」問題が2問とも、県平均正答率と比較すると一番開きが大きく、域内の課題と言えます。

【課題解決のために】

授業で①

本時の課題を提示するとき、「時刻を訪ねるときの聞き方」「人にものを頼むときの表現」など、「～のとき」と言う言葉を使って、その表現を使う場面を意識させましょう。

授業で②

インタビュー活動など、口頭でのコミュニケーション活動を終えた後、まとめとして、表現したことを書いて整理する活動を行いましょう。

定期テストで

テスト問題の英作文の出題の仕方を変えましょう。

これまで 次の日本語を英語にしなさい。

「昨日何時に寝ましたか。」

これから 次のようなとき英語でどのように表現しますか。

「昨日何時に寝たか尋ねるとき。」

県との差はそれほど大きくありません。ぜひ、3学期の期末テストから改善を図ってみてください！